

○ 本校の概要

【学校規模】 生徒数215名(全学年2学級計7学級) 教員数 18名
【本校の特色】
ユネスコスクール加盟校、今年度で25年目を迎える生徒会主催によるアルミ缶回収運動、1・2年生による修学旅行見送り隊
生徒が毎日1ページ以上取り組む「自主学習ノート」による家庭学習の推進、4名の道徳授業推進教師による道徳教育の研究推進

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が80%以上。	4	生徒アンケート「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が81.8%であった。学力向上に向け、4月に「毎日の家庭学習～学習の仕方～」を全員に配付し、家庭学習のあり方について説明を行い、「自主学習ノート」を全学級で実施した。今後も、家庭学習習慣の確立のために「自主学習ノート」の取組を続けていく。	・授業での落ち着いた態度など生徒たちの素直な成長ぶりに来ている。 ・教職員の努力により目標達成ができています。学習チェックシートについての報告は学期に1回でも結果についてしっかりと生徒保護者に伝えれば効果が十分上がるのではないかと。 ・自主学習ノートの書き方についてマニュアルを作成し指導したことはとても効果的だと思ふ。 ・先生方の指導に感謝。 ・アンケートを分析しきめ細かく指導に生かしていく努力をしていると思う(全項目)
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%以上。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が60%未満。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1: 生徒アンケートの設問「学習への取組が積極的になった」での肯定的な回答が40%未満。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	家庭学習習慣の確立のため、「毎日の家庭学習～学習の仕方～」を全員に配付し、家庭学習のあり方について説明を行い、「自主学習ノート」を全学級で実施する。			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が80%以上。	4	生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」93.8%と肯定的な回答が80%以上となった。2学期の相談週間では生徒全員を対象として面談を実施し一人一人の生徒と丁寧に向き合った。今後も道徳授業を要として、生徒の心に寄り添い、心を耕していく取組を続けていく。	・学校行事を参観していると生徒の生き生きとした姿をいつも拝見して、学校生活が楽しく送られている様子が伝わってくる。 ・教職員の努力が生徒のアンケート回答を見ても効果が上がっていることが読み取れる。 ・自己肯定感に関して生徒アンケートで否定的な回答の割合が高いのが気になりました。 ・道徳が教科になる際には生徒への寄り添いは必要だと思ふが、指導する側の自己研鑽を重ねて人間力を高めることも同時に必要になってくると思う。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%以上。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が60%未満。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 生徒アンケートの設問「学校生活に満足している」、「学校の決まりを守っている」での肯定的な回答が40%未満。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	生徒が相談する教員を希望する「相談週間」を実施する。			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が80%以上。	3	生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答は昨年度より5.7%向上し、76.6%であった。一校一取組運動として大縄跳び大会や朝の20分間走など体育的行事を充実させた結果である。今後も運動する機会を設け身体活動量を増加させ体力向上を図る。	・校庭が狭いという不利な条件の中でいろいろ工夫されていると感じる。成果の上がりにくい環境の中、ご苦労いただいている先生方に敬意を表します。 ・自己評価はかなり辛口に評価しているのでは、生徒アンケート評価を見ても良い結果が出ているので自己評価は4で良い。 ・大縄跳びは体力向上のためにもクラスをまとめるためにも良い機会だと思うが、インフルエンザが流行する冬季に早朝登校させるのは如何かと思うので実施時期についてご検討ください。 ・朝の20分間走は良い考えである。大縄跳び大会は寒さを感じられないほど盛り上がり過ぎていて体力面だけでなく社会性も順調に育っている様子が伺えた。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が60%以上。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が60%未満。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1: 生徒アンケートの設問「継続的な運動を通して体力が向上した」での肯定的な回答が40%未満。			
		体育の授業や体育的行事(体育祭や大縄跳び大会)や自主朝練、部活動の取組内容を充実させ、体力向上に取り組む。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が80%以上。	4	生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答は全教科平均87%であった。今後も校内研修を充実させ、生徒がどのように学ぶか、アクティブラーニングの視点から授業改善を進め、教員の授業力向上を図る。	・先生方と生徒たちの様子を見て小規模な学校ゆえの良さが良く生かされていると思う。 ・先生方は一生懸命指導くださっておられるよううかがえます。 ・学校公開時、先生方の授業のあり方を見て非常にわかりやすく説明している。生徒アンケート結果を見ても明らかであり効果は出ている。 ・保護者の回答で「わかりやすい授業をしている」の肯定的な回答の向上に注目した。若い先生が多いが、わかりやすくなるように工夫している様子が伺える。今後も期待したい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が60%以上。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が60%未満。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1: 生徒アンケートの設問「授業は教え方がわかりやすく満足している」の肯定的な回答が40%未満。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	道徳「語り合いの充実」、教科「ICT機器の活用」を研究テーマに、全教員が研究授業を実施する。			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が80%以上	4	保護者アンケート「学校の教育活動は家庭や地域住民の願いや期待に応えるものとなっている」86.8%、「学校は地域力を子どもたちの教育活動に活かしている」94.8%という結果であった。今後も、地域力を活かして生徒の健全育成を図る。	・地域と合同で行う防災訓練を始め「大桜祭り」や祭礼にも生徒たちは積極的に参加してくれている。 ・目標に対して学校として非常に良く取り組まれており、その結果も出ている。 ・学校と地域は伝統的に好ましい連携が維持継続されているように思われます。 ・生徒と地域の方が連携できているというモデルケースがアルミ缶回収だと思ふ。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が60%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が60%未満			
		生徒会主催アルミ缶回収運動を実施する。	1: 保護者アンケートの該当する項目でAまたはBと肯定的に答えた保護者が40%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。